

公開日 2020年5月21日

●前段

谷津干潟は千葉県習志野市にあり、四角い形をした小さな干潟です。2本の水路で東京湾とつながり、潮の満ち引きにより、干潮の時は陸になり、満潮の時は海水で覆われます。ここには、ゴカイ・貝・カニ・魚・海藻・プランクトンなどたくさんの生きものが暮らし、それらを食べにたくさんの水鳥がやってきます。この紙芝居は、谷津干潟にやってくる小さな渡り鳥のお話です。

0 表紙

全員 今日のお題は「がんばれ！ちびた！」

1

ちびた こんにちは。僕の名前はちびた。トウネンっていう鳥なんだ。
ここは、僕の生まれた国、シベリア。
おいしい虫がたくさんいて、とっても素敵なところなんだ。
優しい父さんに守られて、大好きな虫をいっぱい食べてルンルンだ！

ナレーター そんな、ある日のこと。

2

リーダー さあ、こどもたち。よくお聞き。

ちびた あっ、リーダーが呼んでるよ。

リーダー ちびたもずいぶん大きくなったな。飛ぶのも上手じゃないか。
もうしばらくしたら、ここシベリアを離れて南の国へ旅に出るんだよ。

ちびた 南って？あの森のあたりまで？

リーダー いいや。それよりずっと南だ。
ここは、今はこんなにたくさんの虫がいるけど、すぐに冬がきて何もかも凍ってしまう。そうしたら食べ物が無くなってしまうのさ。

ナレーター シベリアの短い夏はあっという間に過ぎて、どんどん寒くなってきました。

3

リーダー さあ、出発だ。みんなつづけー！

ナレーター どうとう、ふるさとを離れる日がやってきたのです。

ちびた よーし、ぼくもみんなについて行くぞ！

ナレーター ふるさと、シベリアはどんどん小さく遥かとおくなっていきます。
いよいよ、命がけの大旅行が始まります。

4

ナレーター ある夜は、満天に輝く星空をみんなで飛びました。
ちびた うわあー。なんてきれいなんだろう。
リーダー さあ。道を間違えないように、あの星を目印に飛んでいこう。
ナレーター さて、トウネンたちがシベリアを出発してからもうどのくらい経ったのでしょうか。

5

ちびた ああ。おなかがペコペコだ。もう何日も、なんにも食べてないよ。
おなかいっぱい食べたいよお。
リーダー みんなすっかりやせてしまったなあ。
それ、がんばって飛ぶんだ、ちびた。
ナレーター トウネンたちの体重は半分に減っています。
ちびたは、群れからみるみる遅れていきます。
ちびたの体力が限界に近づいたその時、、、

6

リーダー あっ、谷津干潟が見えるぞっ！ もう少しだ。
がんばれ。谷津干潟レストランまで行けばご馳走がいっぱいあるぞ。
ちびた え！？ご馳走？ 助かったー。なんだか急に力が湧いてきた。 よしっ！

7

ちびた うわーい。ご馳走でいっぱいだ。
リーダー ほら、カニや魚や、貝がいるぞ。
ちびた それに、ぼくの大好きなゴカイもいっぱい。 おいしいな。
ナレーター ちびたは、もう夢中で食べて食べて食べまくりました。
ちびた ごちそうさま。あー。 まんぷく。 もし、ここに谷津干潟レストランがなかったら、今ごろどうなっていたか分からないよ。
ナレーター そのときです。 なにか大きな影がちびたの前に立ちはだかりました。

8

ちびた や、やあ。 君は、とっても大きいんだね。
アオサギ ああ。 ぼくたちアオサギは、この谷津干潟で一番大きい鳥なのさ。
それにしても、君たちはとっても小さいね。
ちびた うん。 僕らは谷津干潟で一番小さな鳥なんだって。
ナレーター 何日かするとちびたは太って元の体に戻りました。

9

ナレーター　そこへリーダーがやってきて言いました。
リーダー　さあ、みんな。南の国へ出発しよう。
ちびた　ええっ！もっと南へ行くの？　ぼくはまだここにいたいなあ。
リーダー　ここも、もうすぐ寒い冬がくるんだよ。
　　もっと、もっと南の国へ行かなきゃならないんだ。
ちびた　そうか……。　それじゃあぼく、がんばるぞ。
リーダー　さあ。　みんな、いくぞっ。
ちびた　さようなら、アオサギさん。
アオサギ　さようなら～
ナレーター　こうして、トウネンたちは谷津干潟を後にしました。

10

ナレーター　みんなで飛び続けていると、果てしない大海原に出ました。
ちびた　うわ～。　なんて広いんだろう。
　　きれいな海だなあ。　陸がぜんぜん見えなくなったよ。
ナレーター　トウネンたちはどんどん、どんどん飛び続けました。
ちびた　あっ。　こんどは島が見えてきたよ。
ちびた　みんながその上を通過しようとしたその時です。
　　何かがすごいスピードでトウネンの群れをめがけて突っ込んできました。

11

リーダー　ハヤブサだっ！　危ない！　みんな逃げろっ！！
ちびた　うわあっ、こわいよ！
リーダー　みんなはやくっ！　こっちに！！
全員　うわー！
ナレーター　ちびたはなんとかハヤブサから逃げることができました。
　　しかし、こんなことが何度かあって仲間は少しずつ減っていきました。
　　それでも、トウネンたちの旅はつづきます。

12

リーダー　ああ、ひどい嵐になった。　あの島で嵐がおさまるのを待とう。
　　さあ、もう少しだ。
ちびた　あの島まで！　ああ、風に流されちゃうよ。
リーダー　みんな、がんばるんだ。　ちびたもはぐれるなよ。
ちびた　ぜんぜん、前に進まないよ！　みんなまってっ！　みんな～！
全員　ちびたー！

13

ナレーター 嵐は去り、何日かたちました。
ちびたは一体どうなってしまったのでしょうか？

(少し間を置く)

14

ナレーター あっ！ ちびたがいます。 とうとう南の国オーストラリアへたどり着いたのです。
仲間も一緒です。 シベリアから一万キロの旅が終わりました。
でも、ここは、食べて休んで眠るところ。
春になったら子育てをするためにまた、もと来た道をふるさとのシベリアへもどります。
その時にはまた谷津干潟に立ち寄ってくれることでしょう。
・・・・・・・・おや、そろそろシベリアに春が近づいたようです。

15

リーダー さあ。 ふるさと、シベリアへ出発だ。
ちびた がんばるぞー！
全員 おしまい

●後段

トウネンは15 cmほどのシギの仲間です。シベリアで繁殖(子育て)し、オーストラリアやニュージーランドで越冬(冬越し)します。谷津干潟には渡りの途中、4~5月、8~9月に立ち寄ります。潮が引くと(干潟の泥が見える頃)、干潟の泥の中にくちばしを入れて干潟の小さな生きものを食べている様子が観察できます。

渡ってきたばかりのトウネンの体重は約20グラム。次の渡りを開始する頃には体重を2倍に増やすといわれています。ちょうど1円玉1枚が1グラムですので20~40枚用意して体感してみてください。

谷津干潟は、長い旅をするシギやチドリなどの水鳥にとって、エネルギーを蓄えるための中継地として大切な場所です。トウネンが谷津干潟に飛来する季節になったら、「ちびた」に会いに来てください。とても小さな鳥なので見つけにくいかもしれません。その時は観察センターのレンジャーに聞いてみてください。そして、一生懸命に食べている姿から、鳥の渡りを実感してみてください。



撮影 2014年5月11日谷津干潟 トウネン

